



OMRON

Sensing tomorrow™

**2013年度
第1四半期決算
投資家様向け説明会**

2013年7月30日

オムロン株式会社



目次

1. 当社の現状認識	...	P. 3
2. 第1四半期業績結果と通期業績見通し		
第1四半期業績結果	...	P. 5
通期業績見通し	...	P.14

*** 第1四半期決算説明後、環境事業の取り組みを説明予定**



当社の現状認識



【第1四半期実績】

（前年同期比）

- 第1四半期(4-6月)は、売上は、全セグメントで増収となり、特に車載、社会システム、ヘルスケア、その他事業が好調。営業利益では、車載、ヘルスケア、その他事業が増加し、全社で大幅増収増益となった。

（計画比）

- 第1四半期の計画は開示していないが、期初の為替前提でも全社で社内目標をクリアした。

【上期・通期見通し】

- 現時点では第2四半期以降も計画達成を見込み、全セグメントで増収増益を見込む。したがって、上期・通期ともに全社で期初計画通りを見通す。なお、足元では円安基調が続いているが、為替・原材料価格の前提は変更しない。
- 引き続き、VG2020で掲げた中長期戦略の実行と成長に向けた戦略投資を計画どおりに実行し、最終年度としてのVGグローバルステージを完遂させる。



第1四半期業績結果



連結損益計算書

- 増収増益。売上高 前年同期比+16.5%、営業利益 同+59.1%
- 売上総利益率は売上増や為替の影響もあり、37.6%(+1.0P)で計画インライン。

(億円)

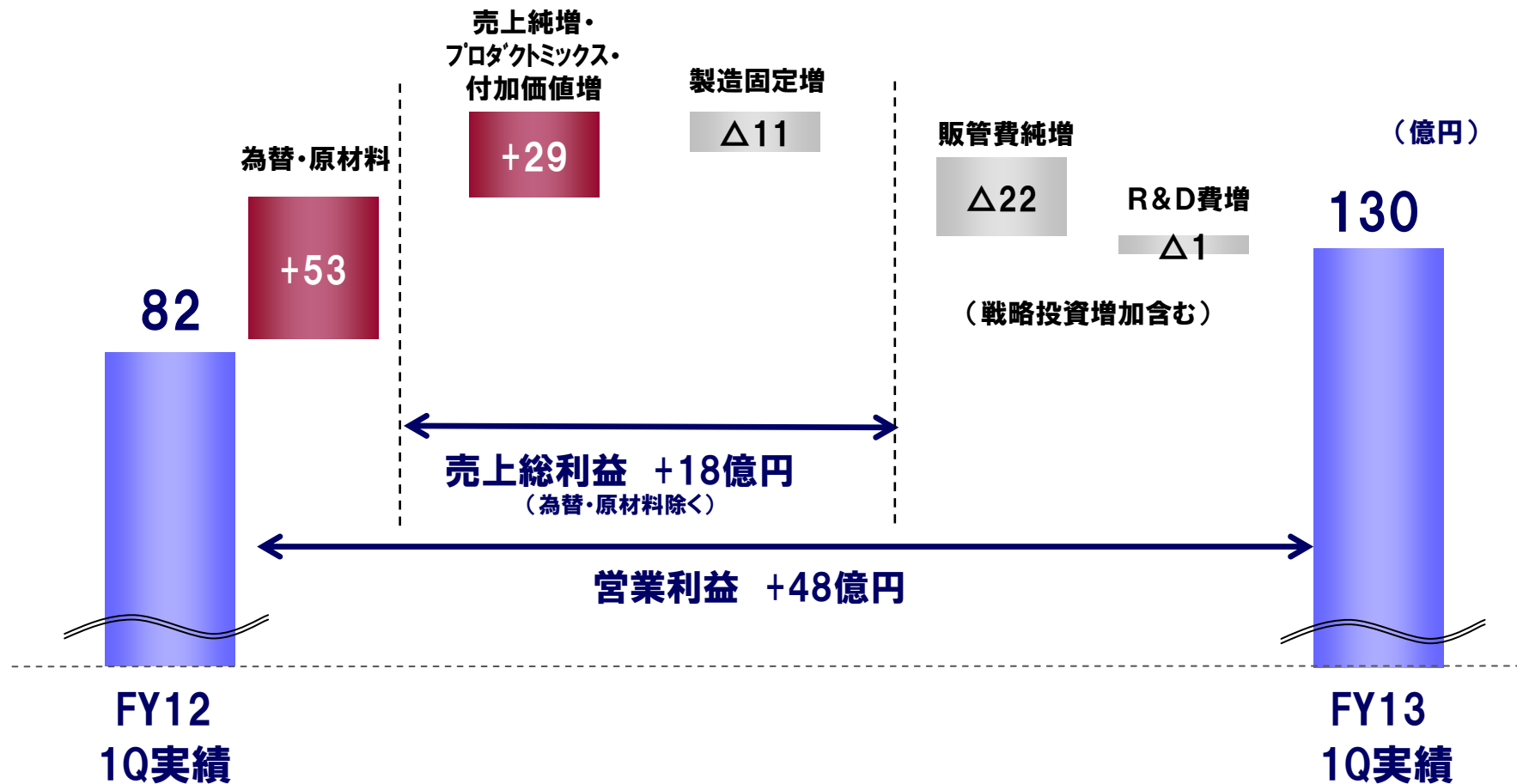
	2013年度 1Q	2012年度 1Q	前年同期比
売上高	1,746	1,499	+16.5%
売上総利益 (売上総利益率)	657 (37.6%)	548 (36.6%)	+19.8% (+1.0P)
販管費	417	360	
R&D費	110	106	
営業利益 (営業利益率)	130 (7.5%)	82 (5.5%)	+59.1% (+2.0P)
営業外費用	3	14	
税引前四半期純利益	127	68	+86.1%
四半期純利益	92	47	+95.9%

USDレート(円)	98.3	80.4	+17.9
EURレート(円)	127.6	103.4	+24.2
銅価格(円)	775	721	+54
銀価格(円)	82,340	82,880	△540



営業利益増減分析 <前年同期比>

- 売上純増に加えて為替影響もあり、売上総利益が増加。成長に向けた販管費・R&D費を増加させるも、営業利益は前年同期比大幅増加。





連結貸借対照表

- 在庫は前年同期比で82億円の増加。ただし、為替影響を除くと882億円で、実質は約30億円の削減となり、順調に在庫コントロールができています。

(億円)

	2013年6月末	2012年6月末	2013年3月末
資産の部	5,912	5,178	5,736
現預金	678	507	557
売上債権	1,495	1,224	1,569
在庫	995	913	910
在庫(為替除く)	882	913	
繰延税金、その他流動資産	314	298	301
固定資産	1,294	1,183	1,268
投資その他資産	1,136	1,053	1,131
負債の部	2,028	2,015	2,049
短期借入金	94	237	56
長期借入金	0	0	0
支払い手形及び買掛金等	786	692	756
退職給付引当金	555	590	569
その他負債	593	496	668
純資産の部	3,883	3,163	3,688
資本金・その他剰余金等	4,369	4,385	4,277
その他包括利益(損失)累計額	△342	△786	△443
自己株式	△164	△445	△164
非支配持分	19	9	18
負債及び純資産合計	5,912	5,178	5,736



連結キャッシュ・フロー計算書

➤ 当期純利益の増加により、FCFは前年同期比で大幅増。

(億円)

	2013年度 1Q実績	2012年度 1Q実績	(参考)2012年度 実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	178	126	531
投資活動によるキャッシュ・フロー	△56	△75	△285
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	122	51	246
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14	20	△186
換算レート変動の影響	12	△17	44
現金及び現金同等物の増減額	120	55	105
四半期末の現金残高	678	507	557
設備投資	58	70	283
減価償却費	57	53	225

※四半期での設備投資額は、連結キャッシュ・フロー計算書の資本的支出を適用



事業セグメント別 売上高

- 全事業セグメントで前年同期比アップの売上を達成。
- 特に車載事業、社会システム、ヘルスケア、その他事業で大幅に増加。

(億円)

	2013年度 1Q	2012年度 1Q	前年同期比
制御機器事業 (IAB)	668	660	+1.2%
電子部品事業 (EMC)	237	213	+11.2%
車載事業 (AEC)	293	241	+21.5%
社会システム事業 (SSB)	128	100	+27.5%
ヘルスケア事業 (HCB)	209	154	+36.3%
その他事業	195	115	+69.4%
消去調整他	16	16	△1.6%
合計	1,746	1,499	+16.5%



事業セグメント別 営業利益

- 車載、ヘルスケア、その他事業が売上増加により営業利益増加。
- 事業ミックスの良さを発揮し、全社で大幅増加。 (億円)

	2013年度 1Q	2012年度 1Q	前年同期差
制御機器事業 (IAB)	77 (11.5%)	82 (12.4%)	△5 (△0.9P)
電子部品事業 (EMC)	15 (6.5%)	16 (7.5%)	△1 (△1.0P)
車載事業 (AEC)	22 (7.5%)	15 (6.3%)	+7 (+1.2P)
社会システム事業 (SSB)	△18 (-)	△17 (-)	△1
ヘルスケア事業 (HCB)	22 (10.6%)	9 (5.9%)	+13 (+4.7P)
その他事業	22 (11.1%)	△11 (-)	+33
消去調整他	△10	△12	+2
合計	130 (7.5%)	82 (5.5%)	+48 (+2.0P)

※カッコ内の数字は外部売上高に対する営業利益率



エリア別 売上高（円ベース）

- 海外売上は対前年同期比2桁の伸び。特に欧州、中華圏、東南アジアで大幅増加。
- VG2020グローバルステージで注力している新興国で堅調に推移。

（億円）

	2013年度 1Q	2012年度 1Q	前年同期比
日本	765	703	+8.8%
米州	222	201	+10.5%
欧州	239	188	+26.7%
中華圏	333	270	+23.7%
東南アジア他	187	137	+36.4%
合計	1,746	1,499	+16.5%



エリア別 売上高（現地通貨ベース）

- 欧州はロシア等が堅調に推移し、現地通貨ベースでも前年同期比プラス。
東南アジアは2桁の増収。

	2013年度 1Q	2012年度 1Q	前年同期比
日本（億円）	765	703	+8.8%
米州（M USD）	226	249	△9.1%
欧州（M EUR）	187	180	+4.4%
中華圏（M CNY）	2,090	2,104	△0.7%
東南アジア他（M USD）	190	169	+12.0%



通期業績見通し



第2四半期以降の前提

第2四半期以降の外部環境認識

- グローバル経済は総じて緩やかに改善傾向。
- 地域別の経済環境
 - 国内：需要の本格回復は3Q以降
 - 海外：欧州：景気停滞継続
 - 米国：自動車を中心に設備投資需要は堅調
 - 中国：景気不透明感が残るも徐々に回復の兆し
 - 新興国：底堅い経済成長による個人消費・設備投資の需要増

前提条件(為替／原材料価格の第2四半期以降の前提)

為替： USD … 90円
 EUR … 120円

(前回見通し：USD … 90円、EUR … 120円)

1円変動による影響額(通期)

通貨	売上への影響額(通期)	営業利益への影響額(通期)
USD	約31億円	約5億円
EUR	約8億円	約4億円

原材料： 銀 … 88,500円/kg
 銅 … 770円/kg

(前回見通し：銀 … 88,500円/kg、銅 … 770円/kg)

価格変動による影響額(通期)

原材料	変動額	営業利益への影響額
銀	1,000円/kg	約1億円
銅	10円/kg	約1億円



事業セグメント別 事業環境認識

	事業環境認識
制御機器事業 (IAB)	国内： 半導体、工作機械関連、自動車、電子部品関連業界の一部において、設備投資需要の回復傾向。ただし本格的な実需回復は3Q以降と見込む。 海外： 中国は、製造業指数低下による内需弱含み懸念はあるが、一部業界での需要増を見込む。東南アジアは、タイ・インドでの電機・自動車業界の投資抑制で2Q以降は弱含み。韓国は回復傾向。
電子部品事業 (EMC)	国内： 白物家電向けは堅調。車載向けリレーはやや低調に推移。 海外： 北米は堅調。欧州は緩やかに回復。中国・アジアは需要増加継続。
車載事業 (AEC)	国内： エコカー補助金終了によるマイナス影響継続。軽自動車は徐々に持ち直し。 海外： 北米市場は堅調、中国・アジアでは需要増加も成長スピードは減速懸念。
社会システム事業 (SSB)	駅務機器の更新需要が引続き堅調。駅ホームの安心安全／駅員業務支援に対する関心が高まる。環境関連事業は太陽光発電関連の工事・保守事業の需要増大継続。
ヘルスケア事業 (HCB)	国内： 健康機器市場は通期においてはほぼ横ばい。 海外： 新興国(中国、ロシア、中南米)における健康機器商品への需要増加継続。
その他事業 (環境・バックライト・MD・電子)	環境関連事業のパワコンは需要増加継続、バックライトも好調持続。



通期見通し

- 売上・利益ともに、1Q実績は社内目標をクリア。
- 上期・通期は、売上・利益ともに期初計画通りを見込む。

(億円)

	2013年度 1Q実績	上期見通し	下期見通し	通期見通し
売上高	1,746	3,360	3,740	7,100
営業利益	130	225	355	580
当期純利益	92	155	245	400

<1Q実績:USD 98.3円 EUR 127.6円>

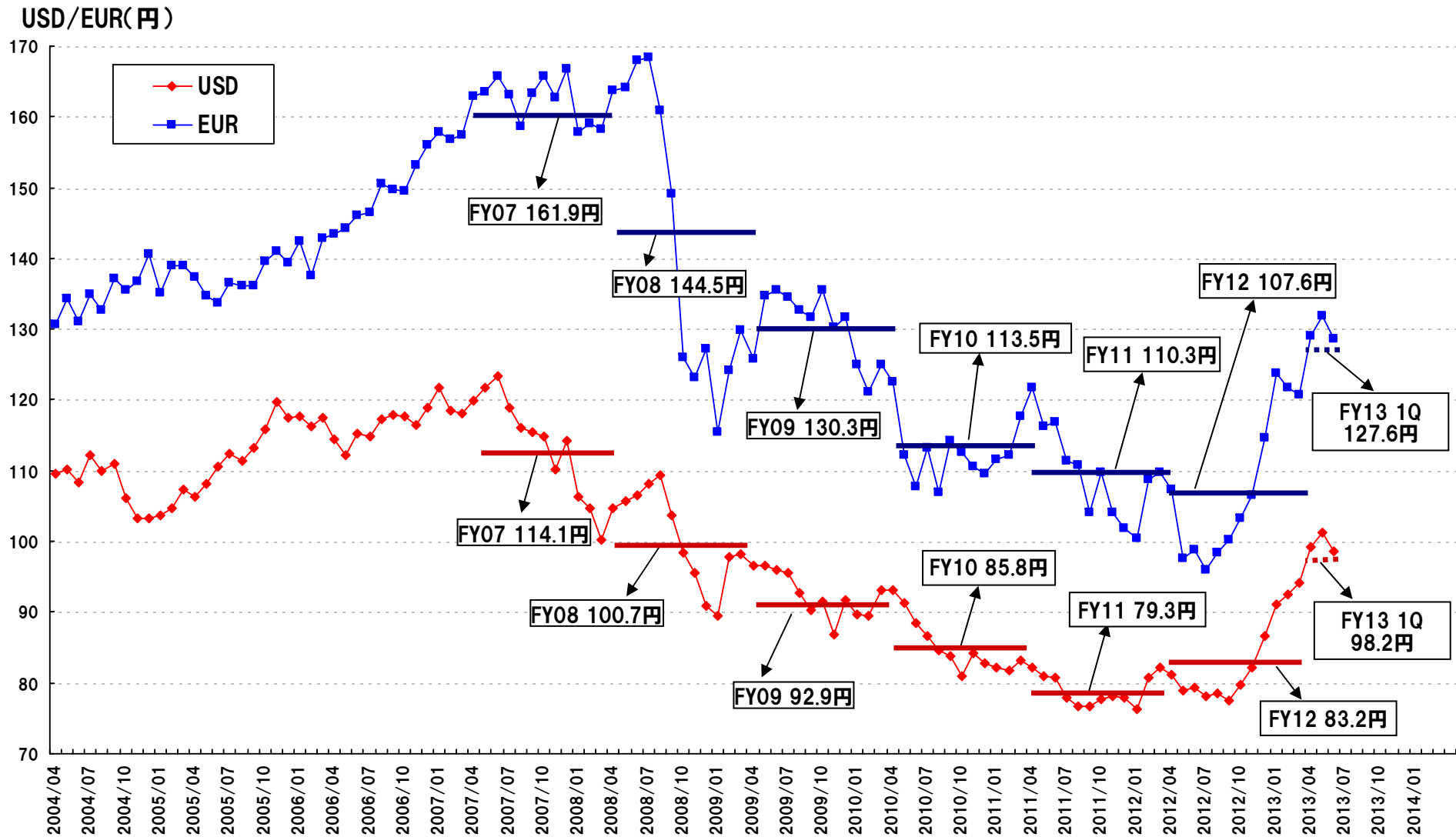
<2Q以降の為替前提:USD 90円 EUR 120円>



参考資料

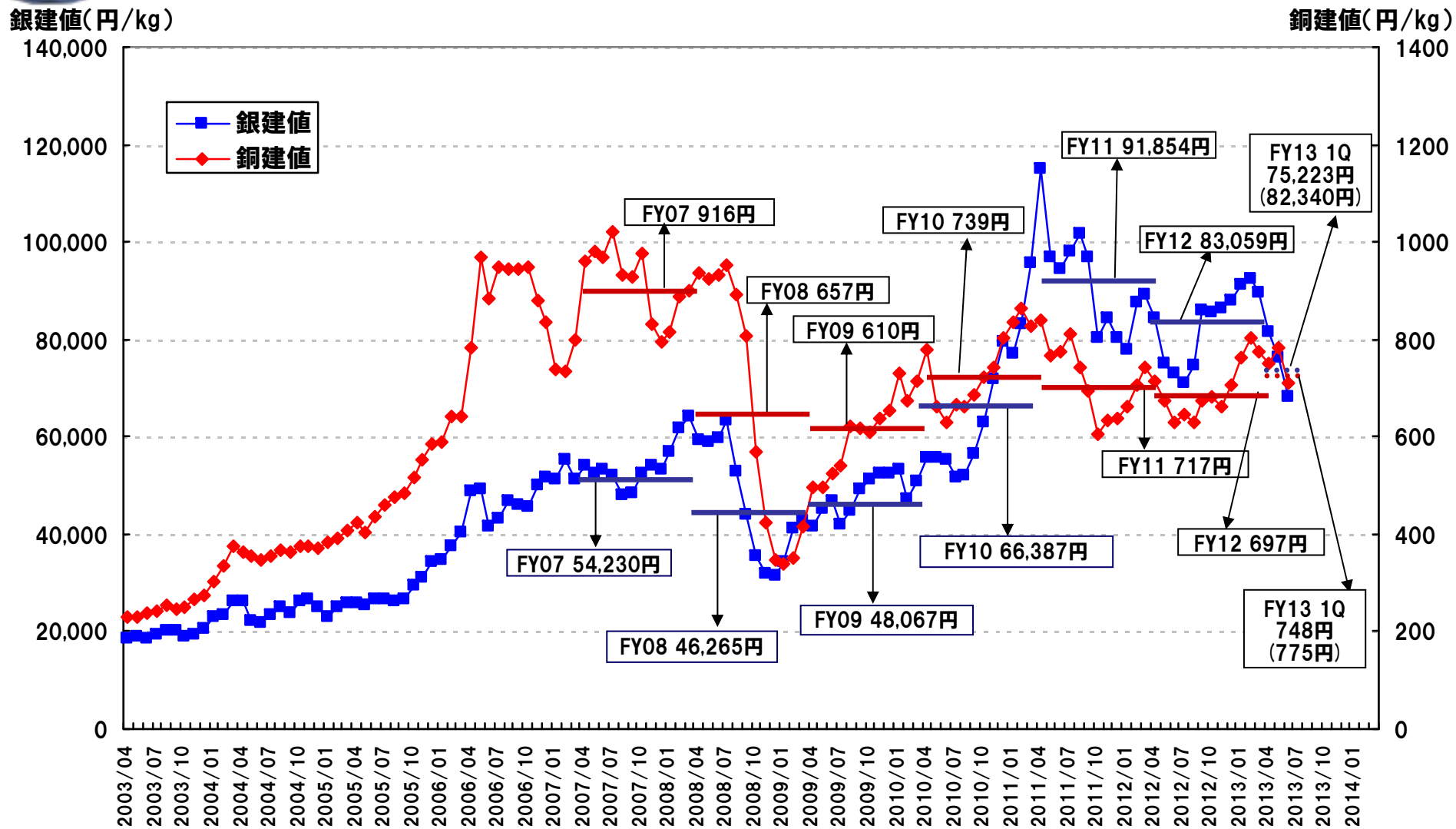


為替レートの推移(ドル、ユーロ)





原材料価格の推移(銀、銅)



※グラフ中の数値は、期中の建値の単純平均値、FY13 1Qのカッコ内数値は決算数値算出用の平均値



オムロンの事業内容

(その他事業)

液晶バックライト、半導体・MEMS、
省エネ・環境ビジネス、電子機器など

(エレクトロニクス & メカニカルコンポーネンツ)

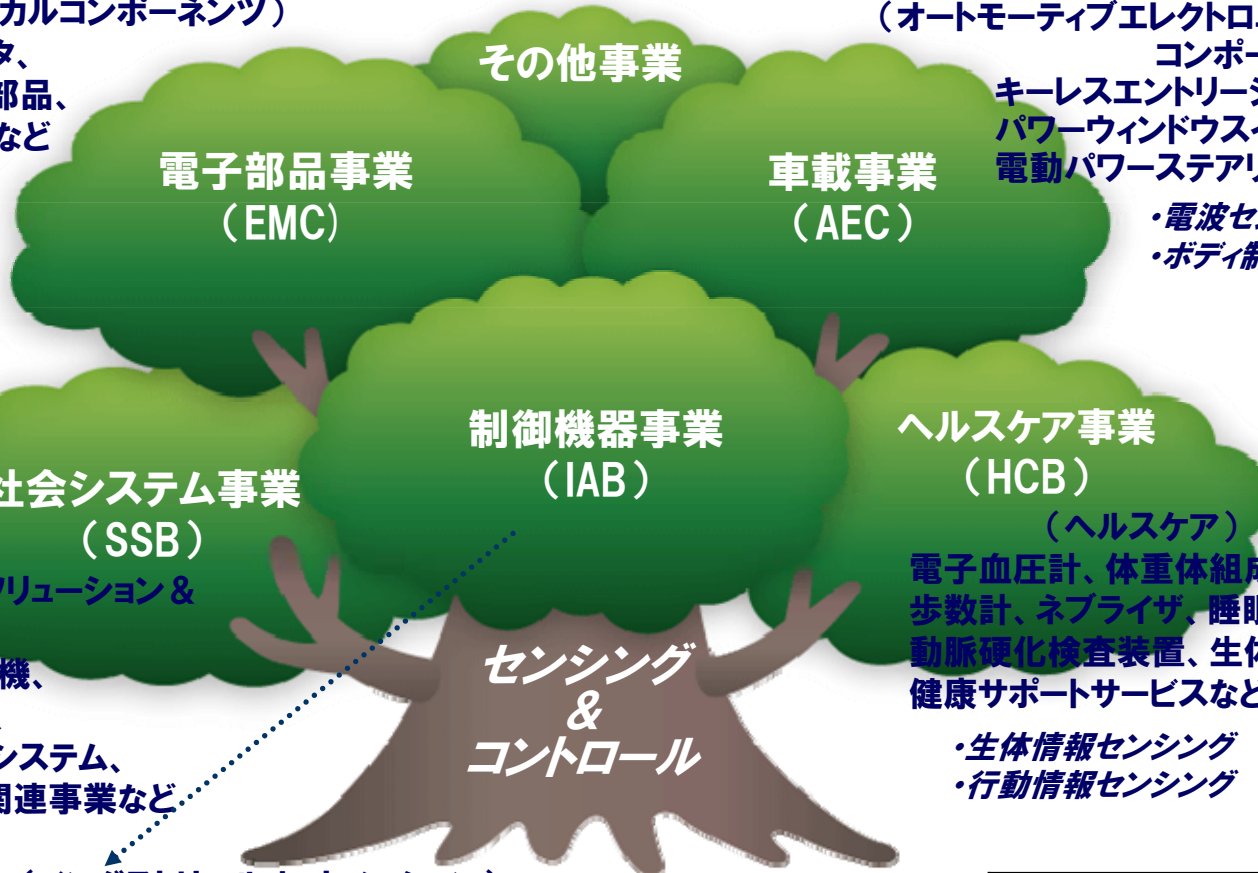
リレー、スイッチ、コネクタ、
アミューズメント機器用部品、
モバイル機器搭載部品など

- ・電気信号センシング
- ・電流・電圧制御

(オートモーティブエレクトロニクス コンポーネンツ)

キーレスエントリーシステム、
パワーウィンドウスイッチ、
電動パワーステアリングシステムなど

- ・電波センシング
- ・ボディ制御



社会システム事業 (SSB)

(ソーシャルシステムズ・ソリューション &
サービス)

自動改札機、自動券売機、
道路情報提供システム、
セキュリティマネジメントシステム、
顔認識システム、環境関連事業など

- ・カード・切符搬送技術
- ・遠赤外センシング
- ・顔画像センシング

制御機器事業 (IAB)

(インダストリアルオートメーション)

近接／光電／視覚センサ、PLC、温度調節器、
セーフティ機器、各種検査装置など

- ・変位・測長センシング
- ・温度コントロール
- ・マシンコントロール
- ・画像センシング

ヘルスケア事業 (HCB)

(ヘルスケア)

電子血圧計、体重体組成計、電子体温計、
歩数計、ネブライザ、睡眠計、
動脈硬化検査装置、生体情報モニタ、
健康サポートサービスなど

- ・生体情報センシング
- ・行動情報センシング

連結子会社数等	154
持分法適用関連会社数	11

※2013年6月末時点



<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績見通し等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、(i) 当社の事業領域を取り巻く日本および海外の経済情勢、(ii) 当社製品・サービスに対する需要動向、(iii) 新技術開発・新商品開発における当社グループの能力、(iv) 資金調達環境の大幅な変動、(v) 他社との提携・協力関係、(vi) 為替・株式市場の動向、(vii) 事故・震災などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

<お問い合わせ>

オムロン株式会社

経営IR室 経営IR部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron_ir@omron.co.jp

HPアドレス : www.omron.co.jp